

初台リハビリテーション病院 厚生労働大臣 上野賢一郎様が当院を視察されました

2026年5月25日、初台リハビリテーション病院に厚生労働大臣 上野賢一郎様が視察に来院されました。今回の視察は、厚生労働省に設置が予定されている「リハビリテーション統括調整室」の検討にあたり、地域におけるリハビリテーション医療の実態を確認することを目的として行われました。回復期リハビリテーション病棟や訓練室をご見学いただき、リハビリ機器や免荷式歩行訓練装置「スパイダー」の体験、地域リハビリテーション活動についても熱心にご視察いただきました。



船橋市立リハビリテーション病院 高度・専門機能認定に向けた取り組み

当院は、リハビリ専門病院として「質の高い医療」の証明である病院機能評価の高度・専門機能認定を継続して受けています。現在は、さらなるリハビリの質向上と、7月の認定更新に向けた院内プロジェクトを推進中です。医師や看護師、療法士、事務職が一丸となり、患者様により安全で効果的な回復期リハビリを提供できるよう、業務の点検や環境改善に取り組んでいます。今後とも地域の皆様に信頼される病院を目指してまいります。



船橋市リハビリセンター リハビリ室に新たに空調設備を設置しました

このたび、船橋市リハビリセンターのリハビリ室に6台の空調設備を新設しました。室内の温度管理がより快適になり、季節を問わず安心してリハビリに取り組んでいただける環境が整いました。利用者の皆さまが心地よく過ごせる空間づくりを進めることで、リハビリへの意欲向上や安全な運動の実施につなげてまいります。今後も快適で質の高いサービスの提供に努めてまいります。



在宅総合ケアセンター元浅草 台東区「鳥越神社大祭」職員35名参加！

今年も台東区の「鳥越神社大祭」(鳥越祭)に6月6日7日、職員35名が参加！鳥越神社の歴史は古く平安時代、奥州征伐に向かう八幡太郎義家公が、隅田川を渡る際に白い鳥に浅瀬を教えられたことから「鳥越大明神」の御社号を奉られたと伝えられています。来年度は皆さまも一緒に担いでみませんか？一緒にお神輿を担ぐことで不思議な一体感が生まれ、仲間意識が芽生えてくるのが魅力です。是非ご参加をお待ちしております。



在宅総合ケアセンター成城 通所リハビリテーションのレイアウトを変更しました

4月より、通所リハビリテーションの1日通所コースと半日通所コースの運営を一体化し、短時間通所コースは2階から1階へ移動いたしました。また、トレーニングマシンの配置を見直し、同一エリア内で効率的にトレーニングを行える環境を整えたことで、ご利用者様の動線がよりスムーズになり、さらに充実したサービスの提供が可能となりました。職員一同、新たな体制のもと、今後もより一層サービスの質の向上に努めてまいります。



季刊情報誌「輝NET」編集・発行 医療法人社団 輝生会 法人本部／〒151-0071 東京都渋谷区本町3-52-6 京西ビル2階 <https://www.kiseikai-reha.com>

初台リハビリテーション病院	〒151-0071	東京都渋谷区本町3-53-3	TEL.03-5365-8500	https://www.hatsudai-reha.or.jp
船橋市立リハビリテーション病院	〒273-0866	千葉県船橋市夏見台4-26-1	TEL.047-439-1200	https://www.funabashi-reha.com
船橋市リハビリセンター	〒274-0822	千葉県船橋市飯山満町2-519-3	TEL.047-468-2001	https://www.funabashi-rehacen.com
在宅総合ケアセンター元浅草	〒111-0041	東京都台東区元浅草1-6-17	TEL.03-5828-8031	https://www.motoasakusa-reha.com
在宅総合ケアセンター成城	〒157-0072	東京都世田谷区祖師谷3-8-7	TEL.03-5429-2292	https://www.seijo-reha.com



kisei・kai
情 報 誌



ミャンマー留学生奨学金支援制度 ～未来の介護人材育成に向けて～

学校法人北斗文化学園

北海道福祉教育専門学校との連携について

医療法人社団輝生会では、介護人材の確保と育成を目的として、2025年度より学校法人北斗文化学園 北海道福祉教育専門学校と連携し、ミャンマーからの留学生を対象とした奨学金支援制度を実施しています。

北海道福祉教育専門学校は、1941年に開校して以来、校是である「愛・敬・信」のもと、地域社会に貢献する専門職業人材の育成に取り組んできた歴史ある教育機関です。1992年には介護福祉学科を開設、現在の自立支援介護福祉学科へと発展しながら、多くの介護福祉士を輩出されました。また、近年は国際教育にも力を入れ、外国人留学生の受入れや日本語教育にも積極的に取り組んでいます。輝生会が支援する留学生も、まず1年間の日本語教育課程で日本語や日本の文化・生活習慣を学び、その後2年間の自立支援介護福祉学科で介護福祉士資格取得を目指し、卒業後は輝生会の介護現場で活躍することを期待しています。

第1期生との再会 ～1年間の成長を実感～

2026年5月14日・15日、輝生会の担当者が同校を訪問し、昨年度より奨学金支援を行っている第1期生9名との面談を実施しました。

昨年の面接では緊張した表情を見せていましたが、再会すると日本語での会話も非常に上達し、学校生活や

将来の目標を、自信を持って話す姿が印象的でした。日本での生活にも慣れ、友人との交流や学業にも積極的に取り組んでおり、この1年間の大きな成長を感じました。現在は介護福祉士資格取得に向けた専門教育が始まり、授業や実習にも真剣に取り組んでいるとのこと。学校の先生方からも学習面・生活面ともに良好であるとの報告を受け、北海道福祉教育専門学校による丁寧な教育・生活支援体制を改めて実感する機会となりました。

2026年度 第2期生9名を選出

今回の訪問では、2026年度奨学金支援対象者の面接も実施しました。応募者は27名、日本語学習への意欲や介護福祉士を目指す目的意識・将来の目標などについて一人ひとりと面談を行いました。応募者はいずれも非常に意欲的で優秀な学生ばかりで、選考は大変悩ましいものとなりましたが、学習姿勢や人柄、熱意などを総合的に評価し、最終的に9名を奨学金支援対象者として選出しました。介護人材不足が社会的課題となる中、本制度は、単なる人材確保にとどまらず、教育段階から人材育成に関わることで、将来にわたり地域医療・介護を支える人材を育成する取り組みでもあります。今後も北海道福祉教育専門学校との連携を深めながら、留学生の皆さんの成長を支援し、質の高い介護サービスの提供につながる人材育成に取り組んでまいります。数年後、輝生会の一員として活躍する学生たちと再会できる日を楽しみにしています。

文責：輝生会本部 常務理事 高橋 誠



輝生会の
基本理念と方針

■「人間の尊厳」の保持
■「主体性・自己決定権」の尊重

■「地域リハビリテーション」の推進
■「ノーマライゼーション」の実現

■「情報」の開示

輝生会における
患者さまの権利

■ 人権を尊重される権利
■ 最善の医療を受ける権利
■ 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利

■ 自らの意思で選択・決定する権利
■ プライバシーの保護を求める権利

リハビリテーション機器について

近年、リハビリテーションの現場では、さまざまな医療機器やリハビリテーションロボットの導入が進んでいます。輝生会でも、日々進歩する最新機器の情報を積極的に取り入れ、より質の高いリハビリテーションの提供を目指しています。リハビリテーション機器とは、病気やけが、高齢化などによって低下した身体機能や認知機能の回復・維持を支援し、日常生活をより安全で快適に送れるようにするための機器やシステムの総称です。これらの機器は、患者さま一人ひとりの状態を客観的に評価したり、効率的で質の高い訓練を行ったりするために活用されています。最新機器を従来のリハビリテーションと組み合わせることで、より効果的な機能回復や自立支援につなげることが期待されています。今回は、輝生会で実際に活用しているリハビリテーション機器を次の分類別にいくつかご紹介いたします。

リハビリテーション機器は、目的によって以下のように分類されます。

- A** 評価機器：歩行分析システム・座圧測定器・筋力測定器・バランス評価装置・身体組成分析装置など
- B** 治療・訓練機器：下肢訓練ロボット・上肢訓練機器・電気刺激装置・エルゴメーターなど
- C** 日常生活活動(ADL)支援機器：移乗支援機器・電動車いす・食事・更衣支援機器など
- D** コミュニケーション支援機器：視線入力装置・コミュニケーション支援アプリなど

*今回は、初台リハビリテーション病院にある機器の一部を選出しています。

A 評価機器

● InBody(インボディー)

筋肉量や体脂肪量、体水分量などを短時間で測定できる体成分分析装置です。電気の流れを利用して体の状態を客観的に評価し、サルコペニア*や低栄養の評価、リハビリテーションの効果判定、健康管理などに活用されています。また、サルコペニアと同時に肥満を併発した「サルコペニア肥満」の評価にも役立ちます。

*サルコペニアとは、加齢などによって筋肉量が減少し、筋力や身体機能(歩く・立つ・バランスを保つ力)が低下した状態を指します。



※ホームページより

B 治療・訓練機器

● Welwalk(ウェルウォーク)

脳卒中などによる片麻痺患者を対象とした歩行練習支援ロボットです。体幹や下肢を安全に支えながら、一人ひとりの回復状況に合わせた歩行練習を行うことができます。

歩行能力に応じて負荷を自動で調整する「難易度調整機能」により、無理なく効率的なリハビリテーションを実施し、歩行機能の回復や自立した生活の実現をサポートします。



● MELTz(メルツ)

脳卒中などで麻痺し動かしにくくなった手指の動きを支援するリハビリテーションロボットです。指を動かそうとする際の筋肉のわずかな反応をセンサーが読み取り、高性能AIがその情報を解析して、握る・開くなどの動きをロボットが補助します。

利用者の意思に合わせて手指の反復練習を行うことができ、効率的な機能回復と日常生活での手の使いやすさの向上が期待されています。



● Vi-dere(ウィデーレ)

VR(バーチャルリアリティ)技術を活用したリハビリテーション機器です。脳卒中などの影響で左右どちらか一方の空間に気付きにくくなる「半側空間無視」の改善を目的に、ヘッドマウントディスプレイを装着して3Dの仮想空間でさまざまな課題に取り組みます。

ゲーム感覚で楽しみながら反復練習を行うことで、注意機能の回復を促し、日常生活で周囲に気付きやすくなることが期待されています。



● Pathleader(パスリーダー)

磁気の力を利用して末梢神経を刺激し、筋肉の収縮を促すリハビリテーション機器です。専用のコイルから短時間の磁気刺激を与えることで、皮膚に電極を貼る必要がなく、痛みや不快感が少ないのが特長です。筋肉を効率よく動かすことで、筋力の維持・向上や運動機能の改善を目指します。脳卒中や整形外科疾患、神経疾患などによる筋力低下や運動障害に対するリハビリテーションで活用されます。



C 日常生活活動(ADL)支援機器

● Permobil(ペルモビール)

高位の頸髄損傷や脳卒中などにより、自力での移動や姿勢の保持が難しい方のために開発された高機能電動車いすです。

利用者の身体状況に合わせて座る姿勢を細かく調整できるほか、座面や背もたれの角度を変えることで、長時間同じ姿勢でいることによる身体への負担を軽減します。これにより、褥瘡(床ずれ)の予防や快適性の向上につながります。また、操作方法も一人ひとりの身体機能に応じて設定できるため、安全に移動しやすく、自立した生活を支援します。外出や買い物、趣味や仕事など活動の幅が広がることで、社会参加の機会が増え、生活の質(QOL)の向上にも大きく貢献するリハビリテーション機器です。



D コミュニケーション支援機器

● OriHime eye(オリヒメ アイ)

視線入力技術を用いて意思伝達や機器操作を可能にするコミュニケーション支援機器です。主に、脳卒中、進行性神経疾患、頸髄損傷、筋萎縮性側索硬化症(ALS)などにより、発話や手足の操作が困難な方を対象としています。



※ホームページより

文責：輝生会本部 常務理事 池田 吉隆

日本整形外科学会学術総会 功労賞受賞

2026年5月21日(木)、在宅総合ケアセンター成城の平泉センター長が、整形外科学および医療の進歩普及に顕著な功績を収めた医師に授与される「日本整形外科学会功労賞」を受賞されました。

輝生会としても、今後患者さま・利用者さまへ還元すべくますますサービスの質の向上に努めてまいります。

